

大田原市教育委員会の「つくる会」教科書 採択強行に抗議し撤回を求める（談話）

大田原市教育委員会は7月13日、2006年度から使用する中学校の歴史教科書および公民教科書について「新しい歴史教科書をつくる会」編集のものを採択する決定をおこなった。これらの教科書は、日本による侵略戦争を正当化する歴史観に貫かれたものであり、憲法改悪を誘導する教科書を採択するという決定は暴挙といわざるを得ない。こうした教科書が次代を担う子どもたちに押しつけられることは、教育によってゆがんだ歴史観を形成するおそれがあり、未来に対する冒瀆でもある。

戦後60年、東アジア諸国が歴史認識の共有に向けて、政府間のみならず民間レベルでも努力がすすめられている国際情勢に鑑み、中国・韓国から即座に抗議の声が挙がったことは当然のことである。日本を国際的に孤立する方向へすすめる今回の決定は、一自治体の問題ではなく日本国民全体の問題であり、東アジアの平和外交の流れに逆行する愚行である。

全国の各自治体においては、住民・専門家などの意見を取り入れながら採択に向けて慎重に審議がおこなわれている。ところが、大田原市教育委員会は、多くの市民、栃木県民の要請を無視し、しかも教科書採択の期限までに十分時間があるにもかかわらず、教育委員が全員そろわないという条件のもとで、あえて採択を強行したということは拙速のそしりを免れない。この間、憲法・教育基本法改悪をすすめる勢力が「つくる会」と一体となって、これらの教科書採択のための策動を強めてきた。大田原市教育委員会の今回の決定は、その動きに屈した政治的なものといわざるを得ない。

以上のことから、「つくる会」教科書採択の決定に強く抗議するとともに、直ちに決定を撤回し採択をやり直すことを求める。同時にこうした暴挙を許さないために、全国の父母・市民とともに「つくる会」教科書の押しつけを許さない運動を広げる決意を表明するものである。

2005年7月14日

日本高等学校教職員組合 教文部長